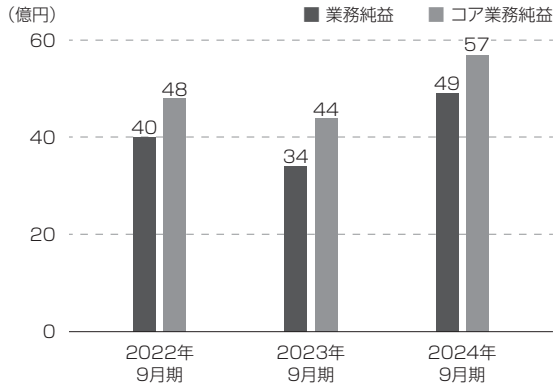
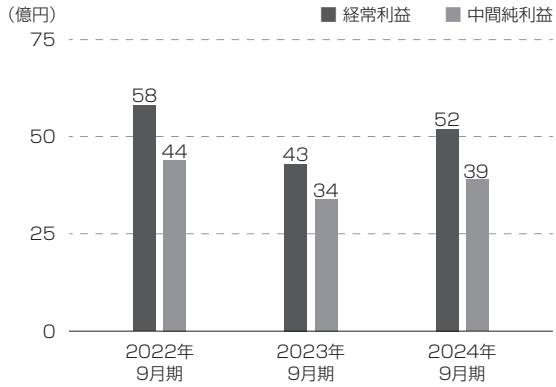
業績ハイライト(沖縄銀行・単体)

損益状況

2024年度中間期の本業の収益力を示すコア業務純益は、貸出金利息、その他受入手数料及び有価証券利息配当金が増加したことなどにより、前年同期比13億円増加の57億円となりました。

経常利益は、コア業務純益の増加及び株式等売却益の増加により、前年同期比8億円増加の52億円となり、最終の中間純利益は前年同期比4億円増加の39億円となりました。



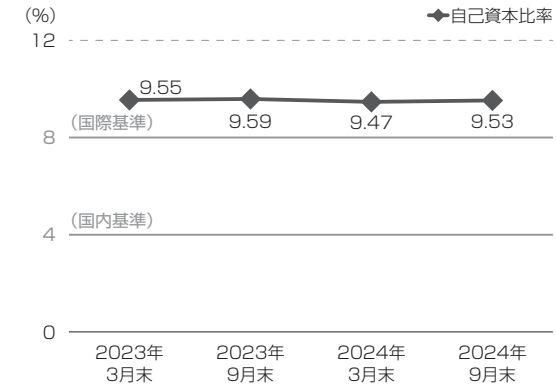


用語解説

【業務純益】
銀行の本来業務(預金・貸出など)で得た利益を表すもので、一般企業の「営業利益」に相当します。
【コア業務純益】
業務純益から「一般貸倒引当金繰入額」、「国債等債券関係損益」などを除いた純粋な収益を表すものです。

自己資本比率

銀行経営の健全性・安全性を測る上で重要な指標のひとつである自己資本比率は、2024年9月末において9.53%となっており、国内基準の4%を大きく上回っています。



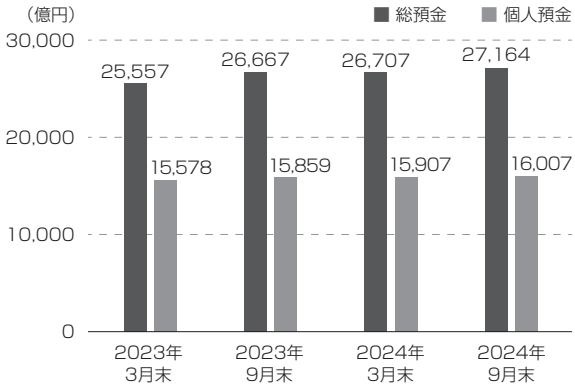
用語解説

【自己資本比率】
総資産に占める自己資本の割合で、銀行の健全性を示す重要な指標の一つであり、比率が高いほど安定した経営といえます。なお、海外に営業拠点を持つ銀行は8%以上(国際基準)、当行のように海外に営業拠点をもたない銀行は4%以上(国内基準)であることが求められています。

預金

2024年度中間期末の総預金残高は、法人預金が減少したものの、個人預金及び公金預金が増加したことから、銀行・信託勘定合計で前年度末比456億円増加の2兆7,164億円となりました。

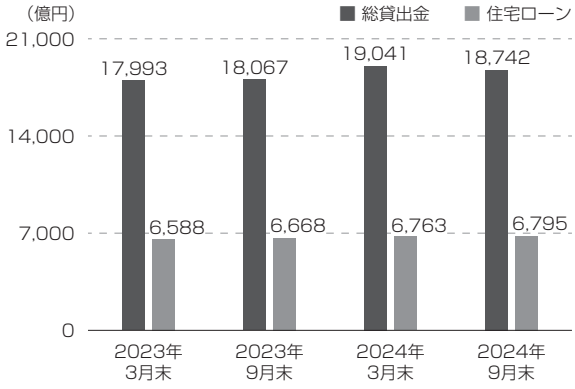
また、沖縄銀行では、多様化する資産運用ニーズにお応えするために、国債や投資信託、個人年金保険などを取り扱っており、お客さまの資産形成を積極的にサポートしています。



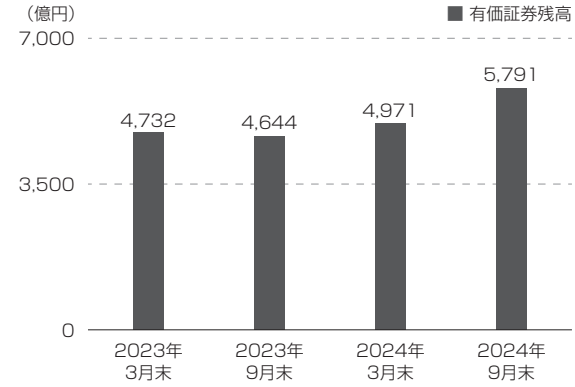
※信託勘定を含んでおります。

貸出金

2024年度中間期末の総貸出金残高は、スピード審査等迅速な対応に取り組みつつ、営業推進強化を図ったことにより住宅ローン及び消費性ローン等の生活密着型ローンが増加しました。また事業性貸出についても県内経済環境の改善を背景に、資金需要の高まりに対し積極的な推進に取り組んだことにより堅調に推移したものの、地公体向け貸出の減少により銀行・信託勘定合計で前年度末比299億円減少の1兆8,742億円となりました。



※信託勘定を含んでおります。

有価証券

有価証券は、金利リスクや残存期間に配慮しつつ資金の効率的運用と安定収益の確保に努めた結果、期末残高は前年度末比819億円増加の5,791億円となりました。また、その他有価証券評価損益は、前年同期比で改善しており、△115億円となりました。なお、2024年度中間期の有価証券運用に伴う利息・配当金収入は32億円となっております。